

校 園 長 室 か ら



学 校 教 育 目 標

共 に 学 び 共 に 伸 び る 子 ども

- ・いのちを大切にできる子ども
- ・だれとでも仲良く協力し合う子ども
- ・意欲をもち学習する子ども
- ・ねばり強くはたらく子ども

令和 8 年 5 月 28 日 第 107 号

襟裳岬

大昔の話と思って調べてみると、1974年発表だとか。当時はフォーク歌手の代表的存在の吉田拓郎とバリバリの演歌歌手であった森進一がタッグを組んで歌を出すなんて、と大騒ぎでした。

どんな曲になるのかと楽しみにしていると、その歌いだしの歌詞に感激しました。

♪北の町ではもう哀しみを暖炉で燃やしはじめている♪

さびの部分では、♪襟裳の春はなにもない春です♪

平成に入ったころ、ふと、この名曲『襟裳岬』を北海道にある本当の襟裳岬で歌ってみたいなあど衝動にかられました。

そして、ほんとに行ったのです。千歳空港から電車で苫小牧へ。そこから日高本線に3時間少し乗って、終点の様似駅へ。さらにバスに乗り継いで1時間。襟裳岬につくと売店の巨大スピーカーから『襟裳岬』が爆音でガンガンかかっていました。歌うどころではなかったので、本当に襟裳岬の切先まで20分ぐらい歩いて、そして熱唱。

襟裳岬近くの民宿に一泊して、早朝の誰もいない襟裳岬でまた熱唱。

帰りの様似駅までのバスは、通学中の高校生でいっぱい。私には非日常のバスですが、高校生たちには日常の景色。いろんな感慨を抱いて大阪に戻ってきたのでした。

この秋、なんと出張で北海道に行くことになりました(嬉)。出張最終日に時間があるので思い切って襟裳岬で『襟裳岬』の再演と思い調べてみると、日高本線は廃線。行くなら全路バスしかない。

襟裳岬には本当に何もなくなっているのでは、と心配になりました。